



くまもと

県高P連新聞

2013
JANUARY

Vol. **33**

絆
支えあういろいろ



高森高校 総合文化部 書道パフォーマンス

CONTENTS

P2～5……平成24年度 熊本県公立高等学校 PTA連合会
地区別指導者研究大会報告

P6～7……第62回 全国高等学校 PTA連合会大会和歌山大会報告

P8～9……学校紹介 熊本県立玉名高等学校・附属中学校
熊本県立松橋高等学校

P10……平成24年度熊本県教育委員会と高P連との
教育懇談会報告

平成24年度熊本県公立高等学校PTA連合会 地区別指導者研究大会

研究大会報告

城北地区／幹事校

鹿本農業高等学校

秋晴れの中、地区内12校と本校生徒の321人が集い研究大会を開催した。「近らしゅう」のブルージャンパーを着て、役員一同おもてなしの心を忘れず取り組んだ。

まず、生徒たちのプロジェクト「環境」を発表し開会行事を行った。県高P連 田上忍会長、幹事校 上田暢一PTA会長、森下久男校長のあいさつ。山鹿市長 中嶋憲正様、県教育庁教育総務局社会教育課審議員 池田幸春様から来賓祝辞をいただいた。

その後、「元氣だそうよ！」と題してブルカン塾塾長・九州じゃ



上田会長（鹿本農高）

お昼は、鹿本の味が満載の弁当とコメロンパン（本校開発米粉商品）に舌鼓をつつた。アトラクションでは、8月に国立劇場で公演した郷土芸能伝承部の「山鹿灯籠おどり」を披露し、その静かな動きと灯籠が山なりに並ぶと「おおー」感嘆の声がわき上がった。

午後からは、各学校研究発表として、荒尾高校の小柳昭幸会長が「PTAと生徒指導く家庭・学校・地域は心合わせ



郷土芸能伝承部の「山鹿灯籠踊り」

ながらグループ代表の下川高士氏より、「プラス志向」や「今が一番」ということを自分の体験や教え子たちの成長からお話をされた。

謝辞は北原副会長が述べ、御礼に「空のメロン箱」を差し上げて、「今、農場で元気に育っています。それを収穫してお送りします」と会場から、笑いと歓声が響いた。

講演報告

演題

「元氣だそうよ！」

講師

ブルカン塾塾長・九州じゃながらグループ代表 下川 高士氏



「元氣だそうよ！」と題して下川高士氏の講演

て」と鹿本商工高校の渡邊明子副会長が「段階的指導を取り入れた生徒指導と保護者の地域交流」の発表があった。閉会行事を終え、郷ひろみの「いつも心に太陽を」BGMとし、参加された皆さんを見送り大会を終了した。

最後に役員・職員みんなで円陣

を組み、「気分はどうでしたか？」：「最高です!!」と大きな声で合唱した。

この大会成功に向けて、ご尽力いただきました県連合会事務局各学校PTA・育友会の会員様に心から感謝を申し上げ、研究大会の報告いたします。

「元氣をだそうよ！」が私の motto です。それは①プラス選びを

する②今が一番大事です。まず、プラス選びでは良い心、良い言葉で家族や他人に接すること。そして頭の中をシンプルにする整理整頓をすることです。次に今が一番大事では、今がチャンスだから逃すなという意味を持つている。誰にも必ず訪れるが、それをチャンスに代える気持ちで毎日生きていきます。元氣を出すことは、人間関係、心身の健康、プラス選びが大切で、今を大事生きることが大切です。どうぞ子どもさんにプラスになる行動を親としての実践をぜひお願いします。今が一番大事だから……。

研究大会報告

中央地区／幹事校

甲佐高等学校

11月17日(土)に、甲佐町生涯学習センターにおいて「平成24年度中央地区公立高等学校PTA指導者研究大会」が開催されました。

指導者の育成を目的とした本大会に、熊本市内をはじめ、阿蘇地区、宇城・上益城地区から雨の中を200名を超えるPTA役員が集い、PTA活動の実践発表や情報交換などが活発に行われました。昨年度から各単Pの広報誌を展示し、各校の広報活動のお手伝いができたと思います。

開会に先立ち、まず初めに歓迎アトラクションとして、今年度からくまもと「親の学び」プログラムに取り組んでいる甲佐高校は、会場の皆様に楽しんでいただくこ



というところで、プログラムの一つである中高生期編のO×クイズで会場を大いに盛り上げました。

このクイズを通して、子どもたちの現状を知り、受け止めて欲しいという願いと自尊感情を育む家庭環境をつくるのが大切だと言うメッセージを送りました。

次にご来賓として、甲佐町長 奥名克美様、甲佐町教育長 赤星眞照様、県教育庁教育総務局社会教育課審議員 池田幸春様にご出席していただき、開会行事を行いました。また、昨年の中央地区連絡協議会会長 山本誠治様の熊本県社会教育功労表彰も行われました。

開会行事に続き、株式会社アスリートクラブ 熊本 代表取締役社長 池谷友良様を講師にお迎えして、「ロアツソ熊本百年構想」と題されて、子どもたちに夢を、という貴重な講演をいただきました。

活動発表では、熊本市立千原台

高等学校と熊本県立盲学校の2校の発表があり、先に千原台高校PTAより、今年の8月で創立55周年を迎え、誠実・創造・友愛を校訓に「徳・知・体」の調和のとれた次代を担う子どもたちの育成に努めています。

PTA総会の参加者が委任状なしで70%前後、欠度者集会を合わせると総会総数が90%になり、保護者の方々の意識の高さが伺える発表がありました。続いて盲学校PTAより、「明るく、強く、精いっぱい」を校訓に目が見えない人、将来視機能が低下する可能性がある人を対象としてさまざまな教育実践を進めています。ちなみに今年行われたロンドンパラリンピックにて柔道60kg級に日本代表で出場し5位入賞を果たされた 平井孝明さんは盲学校の理療科教諭であり、卒業生でもあります。

平井先生の活躍は幼児 児童生徒に大きな希望をもたらしています。

その後の質疑応答では質問が多数あり、会場のPTA役員の関心を集め、意見交換が行われました。質疑の後に、県教育庁社会教育課審議員 池田様より講評をいただきました。

その中でも「子どもの年齢は親年齢」。親として学ぶことの大切さを強く言われました。

閉会行事では次回開催校として松橋高校 松本雄治会長より、明

講演報告

演題

「ロアツソ熊本百年構想」

子どもたちに夢を

講師

株式会社 アスリートクラブ 熊本 代表取締役社長

池谷 友良氏

池谷友良氏は、1962年6月17日生まれで現在50歳。Jリーグ1部柏レイソルの監督を勤められ、2005年に ロアツソ熊本の前身であるロツソ熊本の監督に就任されました。

地域リーグ(JFL)からわずか3年で、チームはJリーグ2部へと昇格。現在は、取締役社長として忙しい日々を送られています。

るく頼もしい挨拶があり、今大会を盛大に終えることができました。この大会を迎えるにあたり何度となく打ち合わせ等、準備をしてきましたが、足りない所やいたら

ない所、ご迷惑を掛けた所があったと思いますが、開催校として責任は果たせたかと思えます。今大会にご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

みんながスポーツを楽しめる国にしたい。そんな想いのもとJリーグ百年構想は生まれ、住んでいる街でスポーツをしたり、応援できる場所があればきっと楽しいし、それが日本中に広がれば、この国はもっと幸せになれる。この想いを共有することこそがロアツソ熊本百年構想。

選手とサポーター、そして それを支えるスタッフ。それぞれがバランスよく成長することでJリーグ1部へ昇格すること。そうすることで熊本の経済効果も上がり、もっとチームも成長しますと言われ、最後にこの言葉を会場の皆さんに贈られました。

「失敗とは 転ぶことではなく 起き上がろうとしない事である」

数々の修羅場を乗り越えてきたアスリートだからこそ言える言葉ではないでしょうか？



研究大会報告

城南地区／幹事校

芦北高等学校

城南地区公立高等学校PTA指導者研究大会を本校体育館で10月21日（日）に開催いたしました。

開会に先立ち、まず初めに歓迎アトラクションとして葦北鉄砲隊による演武でした。葦北鉄砲隊はすでに400回にも及ぶ演武を重ねてきておられ、ご存知の方も多

いと思います。演武では当時の鎧冑の出で立ちで、空砲ですが火縄銃を撃たれました。その火縄銃の発射音と威力に、皆さん大変驚か

れていました。次に来賓として芦北町長 竹崎一成様、県教育庁教育総務局社会教育課課長 石川仙太郎様のご出席を戴き開会行事を行いました。

また、八代南高校前会長 西坂禎二様の熊本県社会教育功労表彰



も行われました。

午前の部のメインである講演は、「鉄砲隊が与えてくれたもの」という演題で葦北鉄砲隊長平江大八氏がアトラクション時の演武の鎧冑姿で講演されました。講演

内容は、火縄銃の伝来により当時の産業、技術、文化に少なからぬ影響を与えたことや日本の当時のものづくり技術の能力、鉄砲の技術を他に応用する創造力の高さについて、また日本人の素養・教養の高さについての話でした。

午後からは八代東高校、球磨工業高校の2校による研究発表でした。八代東高校は「PTA活動と進路支援」と題して学校の概要・PTAの活動実績・PTAの側面支援・今後の挑戦という4点について発表されました。特にPTAの側面支援では進学先や就職先の実情や環境などをもっと知っておく必要があるという観点から、「保護者向け企業訪問」「保護者向けオープンキャンパス」を実施、そ

して「面接指導」を行っているとのことでした。次に球磨工業高校では「学校教育とPTA活動」～一年間を通じた学校とPTAとの関わり～と題



して、学校の概要・PTAの組織・主なPTA活動を発表されました。発表内容は保護者への参加協力をいただけるよう考慮しながら

講演報告

演題

「鉄砲隊が与えてくれたもの」

講師 平江 大八氏

鉄砲隊の活動により、仮面ライダーでご存知の俳優藤岡弘氏や開運なんでも鑑定団の鑑定士澤田平氏などとお会いしました。そのような中で、鉄砲伝来により鉄砲を作るための鍛冶技術・火薬をつくる技術等が飛躍的に発達し、後には時計や旅行用旅枕等がつくられ、当時の日本の生活文化に少なからぬ影響を与えたことを知りました。朝鮮との慶長の役でも鉄砲が使われ、その後韓国でも日本と



地道な活動を通して、「信頼される学校づくり」にお手伝いしている、ということでした。その後の質疑応答では質問も多く、出席者のPTA活動への関心の高さを感じました。

研究発表終了後、県教育庁教育総務局社会教育課課長 石川仙太郎様に研究発表の講評と熊本「親の学び」プログラムについて話をさせていただきました。

最後に、閉会式では球磨商業高校育友会会長から次回幹事校としての温かい歓迎と力強い御挨拶があり、来年度の研究大会へと繋いで終わりました。

同じ鉄砲技術が波及していきま

した。私は鉄砲隊の活動を通して多くの方と出会い、多くのことを体験させていただきました。そして日本の素晴らしい文化に気づき、この文化を守り伝えていくことが日本の未来を創っていく上で大切なことだと思っています。

就職率

100%

《保健科学部》

- ・医学検査学科
- ・看護学科
- ・リハビリテーション学科

理学療法専攻／生活機能療法専攻／言語聴覚専攻

(※2013年度より作業療法専攻から改称)



熊本保健科学大学
Kumamoto Health Science University

不思議を
探求する人の
崇城大学

SOJO UNIVERSITY

就職に強い崇城大学は、
学費の面でも心強い大学です。

そうじょう

検索

研究大会報告

天草地区／幹事校

上天草高等学校



10月28日(日)、上天草高等学校において平成24年度天草地区公立高等学校PTA指導者研究大会が開催されました。今年度は、高等学校再編整備計画により松島商業高等学校と天草東高等学校が閉校となり、参加校がこれまでの11校から9校に減少したなか、総勢105名の参加者を迎えての開催でした。

開会行事では県高P連田上忍会長の挨拶の後、上天草高等学校 嶋田昭仁育友会長、西本守校長の挨拶と続き、ご来賓として県教育庁教育総務局社会教育課審議員 池田幸春様からご挨拶いただきました。



開会行事の後、「育てたように子は育つ」と題して上天草市松島町の地蔵院住職 荒木正昭氏のご講演があり、仏教に造詣が深かったあいだみつお氏の言葉を演題に使わせていただいたというお話から、仏教の教えをユーモアを交えてわかりやすくお話ししていただきました。

講演会の後昼食となり、昼食時間中、会場ではアトラクションとして上天草高校吹奏楽部の演奏とフエンシング部の演技があり、参加者のみなさんは昼食を食べながら上天草高校生の演奏・演技を楽しんでおられました。

午後からは研究協議となり、天草工業高等学校、荅洋高等学校、天草高等学校天草西校の3校から「生徒指導とPTAの役割」という主題でそれぞれの学校の活動が発表されました。3校とも熱の入った発表となり、持ち時間を超過するという場面もありました。発表の後、県教育庁教育総務局社会教育課審議員 池田幸春様から指導助言があり、〇×のクイズ形

講演報告

演題

「育てたように子は育つ」

講師

上天草市松島町 地蔵院住職
荒木 正昭 氏

式の問題を交えて、親の役割・PTA活動のあり方などについて教えていただきました。

開会行事では、天草地区公立高等学校PTA連絡協議会会長で県高P連副会長の牛深高等学校 岩下昭一会長の挨拶があり、次期幹

はじめに、今回の演題は仏教に造詣の深かったあいだみつお氏の言葉を使わせていただいたというお話。あいだみつお氏の言葉は仏教の難しい教えをやさしくわかりやすく表現しており、そこに素晴らしいところがあると説明されました。

父親・母親と子どもは同級生であるというお話。(あるお母さんに、お子さんは何歳ですか?と聞いて、お母さんは10歳ですとこたえられた。では、お母さんは何歳ですかと聞いたら35歳ですとこたえられた。それは違うでしょう、それはあなたの年齢で母親としては10才じゃないですか?)という話から、親は子どもの誕生と同時に子どもと一緒に親として成長していくというお話でした。

日本人は無宗教ではなく多宗教であるというお話。12月にクリスマス

事校である天草高等学校 山浦孝弘会長の挨拶で閉会しました。大会の開催にあたり県高P連事務局をはじめ協力いただいた関係高等学校保護者の皆様に感謝申し上げます。

チャンになり、その一週間後に仏教徒になりその数時間後に神道になる。心のよりどころを何に持つかが大切である。仏教の教えは自分のいただいたものを放棄する。そして、あらためてお釈迦様からいただく。

「生きる覚悟と死ぬ支度」のお話。学校での講演は「命」についての依頼が多い。家庭生活は団体生活の原点、命の教育現場が「通夜」である。「命」についてもつと家庭で語るべきである。

「相合い傘が布施の心」の朗読。相合い傘は二人とも濡れる。自分一人が濡れずにいるのは心苦しいからです。入っていたいたひとに「ありがとうございました」とお礼を言うのが仏教の「布施の心」ですとお話をいただきました。

最後に助産師内田みちこさんのお話で、死んだ子を出産した母親がその子と一夜を過ごす様子を母親の愛の深さとみんなが大切にされる社会をつくりたいという願いの文章を朗読されて講演を締めくくられました。

医療法人 弘仁会
熊本総合医療リハビリテーション学院
あつまれ! 未来の医療人。

理学療法士 作業療法士 臨床工学技士 放射線技士 医療秘書

〒861-8045 熊本市東区小山2丁目25-35
TEL 096-389-1133 FAX 096-389-1135
【ホームページ】http://www.kumareha.ac.jp
【E-Mail】kcmr@kumareha.ac.jp

信頼される医療人へ
熊リハ 検索

2012 合格実績 浪人生のみ
国公立大 228名 九大 195名
医-医 熊大 158名

九州・山口で生徒数 No.1の信頼と実績
学校法人 専修学校 **北九州予備校 熊本校**

ナマ授業の見直しDVD、3タイプの自習室、充実の個別指導体制ほか、北予備はドンドン進化する!!
全国共通 イッパイゴオカク
☎0120-181509

校長/大久保了(元熊本高校校長) 教頭/加藤修(元清々養高校校長) 常任理事/森重行(元玉名高校校長)



第62回 全国高等学校PTA連合会大会 和歌山大会報告

2012年8月22日から24日

までの3日間、和歌山ビックホールをメイン会場に和歌山市と田辺市の7会場において6つの分科会と全体会からなる「第62回全国高等学校PTA連合会大会和歌山大会」が開催されま

した。

全国から約10,000人、火の国熊本からは202名が集結しました。

23日の全体会はオープニングのアトラクションで和歌山県立向陽中学校・高等学校吹奏楽部



による演奏が行われた後、大会開会宣言で開幕しました。和歌山大会実行委員長の西原 英男氏は宣言の中で「近年、加速度的に物や情報が溢れ、私たちの生活は便利になった反面、人と人のつながりが失われてきているのではないか。私たちの大切な子どもたちの環境をもっと血の通った温かいものになりたい。『人とのつながり』の大切さを

まず私たち大人がしっかり学び、大人も子ども共に育つ『共有』の社会をめざして、その具体的な方法を探り出す大会にしたい」と挨拶されました。

午後からは二人の講師をお招きして基調講演が行われました。

まず、一人目は「はやぶさ」と和歌山大学の関わり」と題して、

和歌山大学観光学部教授の尾久士正己氏より「はやぶさ」のサポート活動と、宇宙について学び、世界に発信できるロケット開発についてお話をいただいた後、教授が制作に携われた「はやぶさ」のDVDを鑑賞し美しい宇宙の映像とジャズの音楽にしばしの時間を忘れる一時を過ごしました。

二人目は「はやぶさ」が挑んだ人類初の往復の宇宙旅行、そして7年間の歩み」と題して独立行政法人宇宙航空研究開発機構シニアフェロー宇宙科学研究所宇宙飛躍工学研究系教授の川口淳一郎氏よりお話いただきました。内容は「はやぶさ」が地球引力圏外の天体へ着陸、そして往復して帰還するという人類未踏の挑戦を成し遂げるまでのお話でした。直面した数々の故障や困難にプロジェクトメンバー全員が決して諦めず、高いモチベーションを持って率先して取り組んだということでした。「どうして『はやぶさ』は成功したのか」との問いにはいつも「それは不敗をバネにした意地があったからです。」と答えられるそうです。また「無知の和」を知ることの大切さを実感し、経験者は未経験者に年長

者は年少者に知恵と知識を傳承し、より良いものを作り上げていく必要があるという話はまさに私たち大人がこれからの日本を背負っていく子どもたちを育てる上で大切な指針となるのではないのでしょうか。科学の話を通して、オリジナリティーの大切さとあえて未知のものへ挑戦することの大切さを子どもたちにも伝えたいと思います。

24日には6つの会場に分かれて分科会が行われました。分科会終了後はそれぞれの会場で閉会式が行われ、大会閉会宣言の後、来年度開催地の山口県に全国高等学校PTA連合会旗が引き継がれ3日間の大会が終了しました。

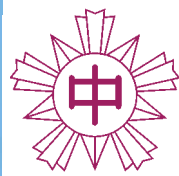


イラスト：池下章裕



校章高校

熊本県立玉名高等学校・附属中学校



校章中学

綱領：至誠、剛健、進取

学校ホームページ <http://sakura1.higo.ed.jp/sh/tamanash/>



体育祭(周辺警備)



正門スケッチ



時計台スケッチ



育友会 会長 百田 繁篤



校長 川上 修治



人文字



体育祭(叫び)



体育祭(観客誘導)



若駒祭(書道部)



小岱山一周大会(豚汁)



文化祭バザー



小岱山一周大会(交通指導)

子どもを中心に
『あふれる笑顔が親の願い』
来年、創立百十周年を迎える
本校は、県北の進学校として四
万人の卒業生をもつ伝統校で
す。また、平成二十三年四月、併
設型中高一貫校として、新たに
出発しました。現在、高校全日
制九五三名、定時制五〇名、附
属中一六〇名の生徒が、日々勉
強・部活動に頑張っています。
多くの学校行事が行われる
本校ですが、「体育祭(五月)」
や「若駒祭(文化祭九月)」では
生徒会を中心とした企画・運営
で実施し、教職員や保護者がサ
ポートすることで、生徒の自主
性や積極性を引き出していま
す。

特に、体育祭の「人文字」を

中心とする応援合戦は、地域の
方々にも楽しみにされているプ
ログラムの一つで、多くのメ
ディアで紹介されると同時に、
記録動画を載せたHPの閲覧
数は、一万回を超えます。
育友会としても、例年三千人
以上の観客がある体育祭時の
周辺警備と交通整理、また、文
化祭食品バザー等に、毎回多く
の保護者が参加し活動してい
ます。さらに、「小岱山一周大
会(十一月)」では、玉名市や
和水町、南関町を通るルートの
交通指導や二千食分の豚汁や
おにぎりの炊き出しに二百人を
超える保護者が参加していま
す。汗をかいた生徒達が挨拶し
て通り過ぎていく姿や完走後

の達成感に満ちた笑顔を見る
ことで、育友会活動を行って
いく原動力をもらっています。
他の活動として、地区別座談
会(六月)や学年懇親会(六月)
を実施し、保護者間相互や先生
方との意見交換の場を作ってい
ます。また、生徒会との意見交
換会(十二月)では、子供たち
と保護者が意見を出し合い理
解を深める取り組みを行ってい
ます。この三者の繋がりが玉高
の強みでもあります。
来年度は、中・高・定の全学
年が揃うと同時に創立百十周
年を迎えます。地域にますます
信頼され、愛される学校となる
ように、今以上に、先生方と協
力して活動していきます。



熊本県立松橋高等学校

綱領：

- 1 自主積極研学の道に邁進しよう
- 2 気節を尚び、礼儀を重んじよう
- 3 質実剛健を旨とし、勤労を愛しよう

校訓：「自主・礼節・勤労」



P T A 松秀会「門松作り」



松橋高等学校



PTA 会長 松本 雄治



校長 赤城 陽一

部活動も盛んで、近年運動部では、陸上競技部・女子ハンドボール部・女子バスケットボール部が全国大会や九州大会に出場しました。また、今年度から女子サッカー部を創部し、新たな歴史と実績を創ろうと日々精進しています。

今年度は、「未来創造への挑戦」～今こそ自己変革～を教育目標のスローガンに掲げ、職員・生徒・保護者が一体となり地域の期待に応えるべく教育にあたっています。

昭和五十二年に、現在地（下益城郡松橋町：現宇城市松橋町）に新築移転し、この間、二万余名の卒業生が各界において活躍しています。

本校は、大正七年（一九一八年）に下益城郡立実科高等女学校として設立されました。大正十年に下益城郡高等女学校、大正十二年に熊本県立松橋高等女学校、そして学制改革に伴い、昭和二十三年に熊本県立松橋高等学校（昭和二十四年に男女共学）となり現在に至っております。平成二十年には創立九十周年を迎え、「飛翔 松高一」の合い言葉の下、宇城地域の教育を担う県内でも歴史と伝統を誇る学校です。



松高フェスタ(文化祭)



P T A 食物バザー



P T A 松秀会
「体育大会前除草作業」



P T A 親睦クラス対抗
ミニバレーボール大会



校内長距離走大会「豚汁作り」



P T A 松秀会
「夜のあいさつ運動」

本校PTAでは、多くの保護者が気軽に学校で子どもの世話をすることを目的に、PTA会長自らが「できる人が、できる時に、できるだけ」とメッセージを発し、協力を呼びかけています。主な活動は、学校行事（体育大会、文化祭、長距離走大会等）における警備や食品バザー等のお手伝い、登校時のあいさつ運動を行っています。特に、昨年度から学校の環境整備に協力できる人を呼びかけ

「松秀会」を発足させました。除草作業、下校時のあいさつ運動、門松作り等、先生方と協力しながら和気藹々と活動しています。更に、本年度より進路委員会が発足し、進路委員や学級委員、先生方と大学視察を実施しました。今後も学校・家庭・地域の連携を密にしていきたいと考えています。



P T A 進路委員会「大学視察」

県教育委員会の方々と熱く協議することができました。

【平成24年度熊本県教育委員会と高P連との教育懇談会報告】

熊本県高P連副会長 田中 修一

目的

県高P連が抱えている活動上の諸問題について、熊本県教育委員会よりご指導ご助言をいただき問題の解決とPTA活動の充実を図る目的で、県教育委員会と県高P連役員の教育懇談会が、10月23日（火）午後、熊本県庁会議室にて県教育委員会、県高P連より26名が参加して、開催されました。

今回で3回目という事で、県教育委員会の担当者の方も回を重ねるごとに数多く出席していただきました。

会の初めに田崎龍一県教育長から「学校、地域と家庭が連携して、開かれた学校づくり、キャリア教育日本一をめざしていることや、差別やいじめをなくしていく上でも親の学びプログラム」の推進、保護者に情報提供をお願いし、地域や家庭も巻き込んで子どもたちを支援して行きたい。」という挨拶をいただきました。

また、PTAの各種研究大会の活発な取り組みへの県高P連の協力に感謝のお言葉をいただきました。

県高P連の活動

本年度の県高P連の活動について、会長以下総務、健全育成、調査広報、進路対策の各委

員長から説明させていただきました。

県教育委員会にご指導いただきたい事

・現在、中央・城北・城南・天草の四地区に地区連絡協議会を組織し活動していますが、統廃合により学校数が減少しています。地区の分け方を見直し再編について検討しています。

また、PTAが設置した統廃合校の空調機の取扱いについては、個別事案にそれぞれ対応していただく等、今後もいろいろとご指導ご助言をいただけるようお願いしました。

・不登校やいじめなど様々な悩みを抱えている生徒のためにスクールカウンセラーの必要性が増しています。配置状況を含めスクールソーシャルワーカーの活動やPTAとして不登校やいじめをなくするためにどのように取り組んだらいいのか、教育委員会では、いじめについてのアンケート調査を実施されています。また、学校とPTAの連携が重要になってくるという事で

県教育委員会にお願いしたい事

・キャリアサポーターの配置における成果は大きく、本年度も配置していただき感謝して

います。キャリアサポーター25名を35校に配置していただいています。来年度もキャリアサポーター制度を是非継続していただきたいとお願ひしました。

今後、継続を目指し、関係省庁と連携して取り組んでいただける所です。

・PTA活動に対して、学校では関係教職員の方々に、ご協力とご支援をいただき大変感謝しています。PTA会費の納入や事務処理まで、お世話になっています。今後も、県教育委員会や校長先生に特段のご配慮をお願いしました。

協議テーマ(意見交換)「進歩の速いITのつきあい方」

パソコン、携帯電話、スマートフォンとIT関連機器の普及の速さはめざましいものがあります。子どもたちは遅れることなくそれぞれの機器を当たり前のように使いこなしています。

ただし、子どもたちと親の間にはIT機器に対する価値観や操作技術の差があり、使用方法や判断を誤り、大変な被害に遭うこともあります。

このような進歩の速い時代、いかに子どもたちを危険から守り、親子でIT機器とうまく付き合っていくか等々、話が

大変盛り上がりました。

携帯電話の所持や使用方法についても地域や学校間でもそれぞれルールが違っていますし、そもそもスマートフォンはパソコンと同様の機能を持つた携帯電話です。

フィルタリング一つとっても親と子どもでは、考え方が異なる等々の困難はありますが、やはり情報モラルや家庭での使用方法やフィルタリングの徹底等のルールについては、持たせるときに親子でしっかり話し合うことが重要です。また、安全に利用する環境や心構えを学校、地域、家庭で考えることが重要なので、今後も研修会などでスマホの取扱い等を含めて啓発していくことが必要であるという事でした。

PTA活動と学校教育は、車の両輪の様な関係です。円滑な運営が出来るよう、今後も県教育委員会に特段のご配慮をお願いしました。

今回、この教育懇談会に参加することができたことと県教育委員会の皆様方と親しく懇談させていただきまして、ありがとうございました。

今後、県高P連では、今回のご指導ご助言いただいた各事項を十分協議させていただき、次のステップへ進みたいと思ひます。

編集後記

今、子どもたちを取り巻く環境の変化は激しいものがあります。

子どもたちのため、真の豊かな教育とは何かを考えながら未来が開けるようより良い環境づくりを目指してPTA活動をみんなで協力していきましよう。

編集にあたりましては、会員の皆様と各学校のご協力に感謝いたします。また、よき仲間めぐまれたことにも感謝します。

調査広報委員長 藤本 親幸

調査広報委員長

高森高等学校 後援会会長

藤本 親幸

調査広報委員

熊本農業高等学校

PTA会長

上田 暢一

熊本農業高等学校

PTA副会長

上田 博子

松橋高等学校

PTA会長

松本 雄治

芦北高等学校

育友会副会長

坂本九己子

甲佐高等学校

育友会会長

廣畑 昌信

顧問

高森高等学校

校長

廣野 康孝

【収穫の太秋柿】



(芦北高校 実習より)